

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3858307号

(P3858307)

(45) 発行日 平成18年12月13日(2006.12.13)

(24) 登録日 平成18年9月29日(2006.9.29)

(51) Int. Cl. F I
B60N 2/18 (2006.01) B60N 2/18
B60N 2/26 (2006.01) B60N 2/26

請求項の数 3 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願平8-218841	(73) 特許権者	000241500
(22) 出願日	平成8年8月20日(1996.8.20)		トヨタ紡織株式会社
(65) 公開番号	特開平10-59034		愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地
(43) 公開日	平成10年3月3日(1998.3.3)	(74) 代理人	100064724
審査請求日	平成15年7月22日(2003.7.22)		弁理士 長谷 照一
		(74) 代理人	100088971
			弁理士 大庭 咲夫
		(74) 代理人	100076842
			弁理士 高木 幹夫
		(72) 発明者	小野 大輔
			愛知県豊田市吉原町上藤池25番地 アラ
			コ株式会社内
		(72) 発明者	吉川 靖司
			愛知県豊田市吉原町上藤池25番地 アラ
			コ株式会社内
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 座面高さ可変の車両用シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

シートクッションと、同シートクッションの後部にて起立状態に位置するシートバックを備え、前記シートクッションは、前後方向に所定の長さの前側クッション部と後側クッション部に2分割されていて、前記前側クッション部は前側下端部にてクッションフレーム側の前端部に前後方向へ回動可能に組付けられて前方へ倒伏可能に支持されているとともに、前記後側クッション部は前記前側クッション部の後側にて前記クッションフレーム側に昇降機構を介して昇降可能に支持され、同昇降機構と前記前側クッション部とは互いに連結されていて、前記前側クッション部の前後方向の回動動作と前記昇降機構の昇降動作が連動されている座面高さ可変の車両用シートであり、前記昇降機構は左右一対のリンク機構からなり、前記昇降機構を構成する各リンク機構は、クッションフレームに固定されるベースの側部に設けた前後方向に延びるガイド溝に下端部を回動可能かつ前後方向へ移動可能に連結されかつ上端部を前記後側クッション部の側部に回動可能に連結されて並列する前後一対の第1リンクおよび第2リンクと、前記ベースの側部に下端部を回動可能に連結されかつ上端部を前記後側クッション部の側部に回動可能に連結された第3リンクと、前記第1リンクの下端部に後端部を回動可能に連結されかつ前端部を前記前側クッション部の側部における同前側クッション部の回動支点より後方の部位に回動可能に連結された第4リンクと、前記第1リンクおよび第2リンクの各下端部に前後各端部を回動可能に連結された第5リンクにより構成されていることを特徴とする座面高さ可変の車両用シート。

10

20

【請求項 2】

請求項 1 に記載の車両用シートにおいて、前記昇降機構は、前記後側クッション部の上昇位置を解除可能に保持する保持機構を備えていることを特徴とする座面高さ可変の車両用シート。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の車両用シートにおいて、前記昇降機構は、前記後側クッション部の上昇位置を解除可能に保持する保持機構を備え、前記昇降機構を構成する前記各リンク機構は前記各第 1 リンクの下端部にて連結ロッドを介して互いに連結されており、前記保持機構は、前記ベースにおける前記連結ロッドの前方にて回動可能に組付けられ最接近した同連結ロッドに掛止可能なフックと、同フックを付勢して前記連結ロッドに弾撥的に掛止させるバネと、前記フックに連結されて同フックを前記バネに抗して回動させる操作部材により構成されていることを特徴とする座面高さ可変の車両用シート。

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は車両用シートに関し、特に、着座部の高さを変化させることができる座面高さ可変の車両用シートに関する。

【0002】

【従来の技術】

車両用シートの一形式として、特開昭 5 2 - 7 1 0 2 0 号公報に示されているように、シートクッションの一部である後側クッション部をクッション本体に対して所定高さまで上昇可能に構成してなり、後側クッション部を下降させてクッション本体と同一高さに位置させた座面高さが低い状態と、後側クッション部を上昇させた座面高さが高い状態とに変更可能とした形式の車両用シートがある。

20

【0003】

当該車両用シートにおいては、後側クッション部を下降させてクッション本体と同一高さに位置させた座面高さが低い状態を大人向け使用態様とし、かつ後側クッション部を上昇させた座面高さが高い状態を幼児・子供向け使用態様として、大人および幼児・子供の乗車に対処し得るようにしている。

【0004】

30

ところで、当該車両用シートにおいては、後側クッション部が垂直方向へ昇降する構成であるため、後側クッション部を上昇させた状態では、後側クッション部はクッション本体から完全に分離した高い位置に位置している。このため、上昇位置にある後側クッション部に幼児・子供を着座させた場合、幼児・子供の両足はクッション本体には届かずに宙に浮いた状態にあり、幼児・子供の着座した姿勢は必ずしも安定した状態とはなり得ない。従って、かかる形式の車両用シートにおいて、幼児・子供向け使用態様に変更した場合、着座している幼児・子供の両足を確実に支えることができ、幼児・子供の着座姿勢を安定させるようにすることが望ましい。

【0005】

かかる問題に対処した車両用シートとして、ヨーロッパ特許第 0 6 6 6 1 9 4 A 1 号公報には、シートクッションを前後方向に 3 つに分割して、前側クッション部をクッションフレームの前端部に前後方向へ回動可能に組付けて前方へ倒伏可能に支持し、中央クッション部と後側クッション部を互いに回動可能に連結して前側クッション部とは独立させ、この状態の後側クッション部を昇降機構にて支持させた車両用シートが提案されている。

40

【0006】

当該車両用シートにおいては、後側クッション部を昇降機構により上昇位置まで上昇させて幼児・子供用の着座部とするとともに、前側クッション部を前方へ倒伏させてフットレストとして幼児・子供向け使用態様に変更するものであり、後側クッション部に着座した幼児・子供は前側クッション部にて両足を乗せて安定した着座姿勢を保持し、後側クッション部と前側クッション部間に位置する大腿部を中央クッション部にて受承するようにな

50

っている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、当該車両用シートにおいては、シートクッションを前後に3分割しているため、幼児・子供用の着座部となる後側クッション部の前後方向の長さが短く、幼児・子供に対する快適な着座部となり得ない。従って、幼児・子供に対する快適な着座部を構成するには、図11に示すように、シートクッションAを前後に2分割して、前側クッション部a1をフットレストとして機能させ、かつ後側クッション部a1の前後の長さを幼児・子供が快適に着座し得る長さにして、同後側クッション部a2を着座部として機能させることが必要である。

10

【0008】

また、当該車両用シートにおいて、着座部のクッション性を高めて幼児・子供に対して快適な着座部を構成すべく、シートクッションの厚みを厚くすると、後側クッション部の前端部の上縁と中央クッション部の後端部の上縁間に形成される上方へ開口する開口部が大きくなって、違和感に起因して快適性が損なわれ、逆に開口部を小さくすべくシートクッションの厚みを薄くすると、着座部のクッション性が低下して快適性を損なうことになる。

【0009】

さらにまた、当該車両用シートにおいては、後側クッション部と前側クッション部とは分離して互いに独立した関係にあるため、後側クッション部の上昇操作および、下降操作と、前側クッション部の前方への倒伏操作と後方への復帰操作をそれぞれ別に行わなければならない、かならずしも使い勝手がよくない。

20

【0010】

従って、着座部の高さを変化させることができる座面高さ可変の車両用シートにおいては、上記した幼児・子供に対する快適性、および使い勝手のよい操作性が要請され、本発明の目的は、これらの要請に対処することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

本発明は、シートクッションと、同シートクッションの後部にて起立状態に位置するシートバックを備えた座面高さ可変の車両用シートであって、前記シートクッションは、前後方向に所定の長さの前側クッション部と後側クッション部に2分割されていて、前記前側クッション部は前側下端部にてクッションフレーム側の前端部に前後方向へ回動可能に組付けられて前方へ倒伏可能に支持されているとともに、前記後側クッション部は前記前側クッション部の後側にて前記クッションフレーム側に昇降機構を介して昇降可能に支持され、同昇降機構と前記前側クッション部とは互いに連結されていて、前記前側クッション部の前後方向の回動動作と前記昇降機構の昇降動作が連動されている座面高さ可変の車両用シートである。

30

【0012】

本発明に係る座面高さ可変の車両用シートにおいて、前記昇降機構は左右一対のリンク機構にて構成されており、また、前記後側クッション部の上昇位置を解除可能に保持する保持機構を備えているものである。

40

【0013】

しかして、本発明に係る車両用シートの最大の特徴は、前記昇降機構を構成する各リンク機構を、クッションフレームに固定されるベースの側部に設けた前後方向に延びるガイド溝に下端部を回動可能かつ前後方向へ移動可能に連結されかつ上端部を前記後側クッション部の側部に回動可能に連結されて並列する前後一対の第1リンクおよび第2リンクと、前記ベースの側部に下端部を回動可能に連結されかつ上端部を前記後側クッション部の側部に回動可能に連結された第3リンクと、前記第1リンクの下端部に後端部を回動可能に連結されかつ前端部を前記前側クッション部の側部における同前側クッション部の回動支点より後方の部位に回動可能に連結された第4リンクと、前記第1リンクおよび第2リ

50

リンクの各下端部に前後各端部を回動可能に連結された第5リンクにより構成したことにある。

【0014】

なお、本発明に係る車両用シートにおいては、前記各リンク機構を前記各第1リンクの前端部にて連結ロッドを介して互いに連結し、前記保持機構を、前記ベースにおける前記連結ロッドの前方にて回動可能に組付けられ最接近した同連結ロッドに掛止可能なフックと、同フックを付勢して前記連結ロッドに弾撥的に掛止させるバネと、前記フックに連結されて同フックを前記バネに抗して回動させる操作部材により構成することができる。

【0015】

【発明の作用・効果】

このように構成した座面高さ可変の車両用シートにおいては、シートクッションを前側クッション部と後側クッション部とに2分割した構成であるため、幼児・子供用の着座部として機能させる後側クッション部の前後長さを、幼児・子供が着座するに十分な長さに形成することができるとともに、シートクッションのクッション性を高めるべくその厚みを厚くしても、何等の支障も発生しない。

【0016】

また、当該車両用シートにおいては、前側クッション部の前後方向への回動動作と、後側クッション部の昇降動作を連動させているため、これら両動作の一方の動作を行うべく操作すれば、他方の動作が追従して行われるため使い勝手が良好である。

【0017】

従って、当該車両用シートによれば、幼児・子供に対する着座状態の快適性を向上させることは勿論のこと、大人に対する快適性をも向上させることができるとともに、幼児・子供向け使用態様と大人向け使用態様との変更を面倒な操作を要することなく行うことができるため、使用性を向上させることができる。

【0018】

しかして、本発明に係る車両用シートにおいては、昇降機構を一对のリンク機構にて構成して、同リンク機構を、クッションフレームに固定されるベースの側部に設けた前後方向に延びるガイド溝に下端部を回動可能かつ前後方向へ移動可能に連結されかつ上端部を前記後側クッション部の側部に回動可能に連結されて並列する前後一对の第1リンクおよび第2リンクと、前記ベースの側部に下端部を回動可能に連結されかつ上端部を前記後側クッション部の側部に回動可能に連結された第3リンクと、前記第1リンクの下端部に後端部を回動可能に連結されかつ前端部を前記前側クッション部の側部における同前側クッション部の回動支点より後方の部位に回動可能に連結された第4リンクと、前記第1リンクおよび第2リンクの各下端部に前後各端部を回動可能に連結された第5リンクにより構成している。

【0019】

かかる構成により、前側クッション部、後側クッション部、およびベースを、各リンクにより互いに連結したアッセンブリの状態に組立てることができ、このアッセンブリの状態ではクッションフレームに組込むことができる。このため、車両用シートの組立てが容易であるとともに、アッセンブリとして各種のクッションフレームに対する汎用性を向上させることができる。

【0020】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を図面に基づいて説明すると、図1および図2には本発明に係る座面高さが可変の車両用シートの一例が示されている。当該車両用シートにおいては、図1に示す状態の幼児・子供向け使用態様と、図2に示す状態の大人向け使用態様とに変更可能である。

【0021】

当該車両用シートは、シートクッションAと、シートバックB、ヘッドレストC、およびシートベルトDを備えており、シートクッションAは前側クッション部11と、後側クッ

10

20

30

40

50

ション部 1 2 とに分割されていて、これら両クッション部 1 1, 1 2 は、図 3 に示すように、昇降機構 2 0 に支持されたアセンブリの状態で、両サイド部 1 3, 1 4 が形成する凹所に出没可能に収容されている。

【0022】

前側クッション部 1 1 は、図 4 および図 5 に示すように、プレート状のフレーム 1 1 a、クッションパッド 1 1 b、およびカバー体 1 1 c からなり、クッションパッド 1 1 b はフレーム 1 1 a に載置された状態で、フレーム 1 1 a と一体にカバー体 1 1 c に被覆されて形成されている。

【0023】

後側クッション部 1 2 は、図 6 および図 7 に示すように、フレーム 1 2 a、クッションパッド 1 2 b、およびカバー体 1 2 c にて構成されている。フレーム 1 2 a は、プレートを前後に 2 段に折曲げた段付き状のもので、前側受承部 1 2 a 1 と後側受承部 1 2 a 2 を備えている。クッションパッド 1 2 b は断面略 T 字状を呈するもので、後側が前側に比較して一段下方へ延びる段付き形状に形成されていて、フレーム 1 2 a に対して前側下面 1 2 b 1 が前側受承部 1 2 a 1 にて受承され、かつ後側下面 1 2 b 2 が後側受承部 1 2 a 2 にて受承されている。カバー体 1 2 c は、クッションパッド 1 2 b と類似の形状に形成されている。クッションパッド 1 2 b はフレーム 1 2 a に載置された状態で、フレーム 1 2 a と一体にカバー体 1 2 c に被覆されて形成されている。

10

【0024】

昇降機構 2 0 は、図 3 および図 8 に示すように、ベース 2 0 a、左右一対のリンク機構 2 0 b, 2 0 c、および保持機構 2 0 d を備えている。

20

【0025】

ベース 2 0 a は、水平板状の前側ベース部 2 1 a と、わずかに下方へ突出する湾曲形状の後側ベース部 2 1 b を主体とするもので、前側ベース部 2 1 a の前縁には下方へ延びる前壁部 2 1 c が形成され、かつ後側ベース部 2 1 b の左右の側縁部には上方へ突出する第 1 側壁部 2 1 d と、第 2 側壁部 2 1 e が形成されている。第 2 側壁部 2 1 e は、第 1 側壁部 2 1 d に比較して前後方向に長いもので、後側ベース部 2 1 b の前端部を除く全てに部位にわたって延びている。第 2 側壁部 2 1 e には、前後方向へ延びる 2 本のガイド溝 2 1 f, 2 1 g が直列して形成されている。

【0026】

30

各リンク機構 2 0 b, 2 0 c は同一構成のもので、5 本のリンク 2 2 a ~ 2 2 e と、各リンク機構 2 0 b, 2 0 c を互いに連結する連結ロッド 2 2 f とにより構成されている。これら各リンク 2 2 a ~ 2 2 e のうち、第 1 リンク 2 2 a、第 2 リンク 2 2 b、および第 3 リンク 2 2 c は後側クッション部 1 2 を支持し、第 4 リンク 2 2 d は第 1 リンク 2 2 a と前側クッション部 1 1 を連結し、かつ第 5 リンク 2 2 e は第 1 リンク 2 2 a と第 2 リンク 2 2 b を連結するものであり、図 9 に示す状態に連結されている。

【0027】

第 1 リンク 2 2 a においては、図 9 (a) に示すように、その上端部は、後側クッション部 1 2 のフレーム 1 2 a における前側受承部 1 2 a 1 の側壁部に設けたウェルドナット 2 3 a と、同ナット 2 3 a にブッシュ 2 3 b を介して螺着されたボルト 2 3 c にて回動可能に連結されている。また、第 1 リンク 2 2 a の下端部は、同図 (b) に示すように、連結ロッド 2 2 f の端部に挿通された状態で溶接されており、連結ロッド 2 2 f の端部はベース 2 0 a における第 1 ガイド溝 2 1 f に挿通されていて、連結ロッド 2 2 f の先端には、第 5 リンク 2 2 e の前端部、および第 4 リンク 2 2 d の後端部を挿通された状態で E リング 2 3 d が固定されている。

40

【0028】

これにより、第 1 リンク 2 2 a の下端部は連結ロッド 2 2 f に固着された状態で、第 4 リンク 2 2 d の後端部、および第 5 リンク 2 2 e の前端部に回動可能に連結されているとともに、第 1 ガイド溝 2 1 f に対しては前後方向へ移動可能かつ回動可能に連結され、かつ第 1 リンク 2 2 a の上端部は後側クッション部 1 2 の前側側部にて回動可能に連結されて

50

いる。

【0029】

第2リンク22bにおいては、図9(c)に示すように、その上端部は、後側クッション部12のフレーム12aにおける前側受承部12a1の側壁部に設けたウェルドナット24aと、同ナット24aにブッシュ24bを介して螺着されたボルト24cにて、第3リンク22cの上端部とともに回動可能に連結されている。第2リンク22bの上端部のフレーム12aに対する連結部は、第1リンク22aの上端部のフレーム12aに対する連結部より後方に位置している。

【0030】

また、第2リンク22bの下端部には、同図(d)に示すように、支持ピン24dが挿通されていて、支持ピン24dはベース20aにおける第2ガイド溝21gに挿通されていて、その先端には、第5リンク22eの後端部を挿通された状態でEリング24eが固定されている。

10

【0031】

これにより、第2リンク22bの下端部は第5リンク22eの後端部とともに、第2ガイド溝21gに対して前後方向へ移動可能かつ回動可能に連結され、かつ第2リンク22bの上端部は後側クッション部12の側部における第1リンク22aの上端部より後方にて回動可能に連結されている。また、この状態においては、第1リンク22aと第2リンク22bとは、それらの下端部にて、第5リンク22eを介して回動可能に連結されており、かつ左右の第1リンク22aは連結ロッド22fを介して互いに連結されている。

20

【0032】

各リンク機構20b、20cにおいては、第5リンク22eの長さが第1リンク22aおよび第2リンク22bの各上端部の連結部の間隔と同一寸法に形成されていて、第1、第2両リンク22a、22bは互いに並列した平行リンクを構成している。また、各第4リンク22dの前端部は、前側クッション部11の左右の各側部に回動可能に連結されている。

【0033】

前側クッション部11は、左右のヒンジ25a、25bを介して、ベース20aの前側ベース部21aにおける前壁部21cに前後方向に回動可能に支持されて前方へ倒伏可能になっており、回動支点より後方の側部の部位に第4リンク22dの前端が回動可能に連結されている。第4リンク22dの前端部は、図9(e)に示すように、前側クッション部11のフレーム11aの側部に設けたウェルドナット26aに、ブッシュ26bを介して螺着したボルト26cにより回動可能に連結されている。また、第3リンク23cの下端部はベース20aの第1側壁部21dに支持ピン26dを介して回動可能に連結されている。

30

【0034】

保持機構20dは、図3および図8に示すように、ベース20aの左右の各第2側壁部21eの前端部に各端部を回動可能に軸支したロッド26eに固定したフック27と、フック27を図示時計方向へ付勢するテンションスプリング28と、フック27をテンションスプリング28に抗して回動操作する操作紐29にて構成されている。フック27は連結ロッド22fより前方に位置し、連結ロッド22fがロッド26eに最接近した際にフック27の頭部に当接し、フック27をテンションスプリング28に抗して回動させて弾力的に掛止させる。

40

【0035】

昇降機構20においては、図3に示すアセンブリの状態、ベース20aの各ベース部21a、21bにてクッションフレームに固定されていて、前側クッション部11がベース20aの前側ベース部21a上に水平状態に載置されている状態では、第4リンク22dを介して第1、第2リンク22a、22bの下端部を第1、第2ガイド溝22f、22gの後端部に位置させて、図10(a)に示すように、第1、第2リンク22a、22bを前方へ倒伏した状態として、後側クッション部12を前側クッション部11の後方にて

50

これと同一の水平状態に保持している。

【0036】

また、前側クッション部11を図3に示すように前方へ倒伏させると、第4リンク22dは前方へ引張られて第1、第2リンク22a、22bの下端部を第1、第2ガイド溝22f、22gの前端部に移動させる。これにより、第1、第2リンク22a、22bは第3リンク22cの作用により、図10(b)に示すように、漸次起立して後側クッション部12を上昇位置に移行させる。

【0037】

また、前側クッション部11をさらに前方へ倒伏させると、連結ロッド22fが第1ガイド溝21fの前端に達して第4リンク22dの引張りが規制され、前側クッション部11のそれ以上の前方への倒伏が規制され、これにともない、第1、第2リンク22a、22bのそれ以上の起立も規制される。この状態では、連結ロッド22fが保持機構20dのフック27の頭部に当接してフック27に掛止され、連結ロッド22fの後方への移動が規制される。このため、後側クッション部12は図3および図10(c)に示す状態に保持される。

10

【0038】

このように構成した車両用シートにおいては、図1に示す状態が幼児・子供向け使用態様であり、図10(a)に示す状態が対応する。また、図2に示す状態が大人向け使用態様であり、図10(c)に示す状態が対応する。

【0039】

20

当該車両用シートにおいて、図2に示す大人向け使用態様を図1に示す幼児・子供向け使用態様に変更するには、前側クッション部11の後部に設けた把持部11dを引張り、前側クッション部11を引起こして前方へ倒伏させる。これにより、図10(a)に示す状態のリンク機構20b、20cが前側クッション部11の倒伏動作に連動して同図(b)に示すように漸次起立し、後側クッション部12は前側クッション部11が最大限倒伏した状態では、同図(c)に示すように最高位置に上昇する。

【0040】

この状態においては、保持機構20dのフック27が連結ロッド22fに掛止して、連結ロッド22fおよび第1、第2リンク22a、22bの下端部の後方への移動を規制し、リンク機構20b、20cの起立状態を保持する。これにより、前側クッション部11および後側クッション部12は図2に示す状態に保持され、後側クッション部12は幼児・子供の着座部として機能し、また前側クッション部11は着座した幼児・子供のフートレストとして機能する。

30

【0041】

この状態の幼児・子供向け使用態様の車両用シートを大人向け使用態様に変更するには、保持機構20dの操作紐29を引張って、フック27をテンションスプリング28に抗して回動させる。これにより、フック27は連結ロッド22fから外れ、連結ロッド22fおよび第1、第2リンク22a、22bの下端部が各ガイド溝21f、21g内を後方へ移動可能となる。

【0042】

40

次いで、前方に倒伏している前側クッション部11を後方へ回動して水平状に復帰させると、図10(c)に示すように、前方へ引張れた状態にある第4リンク22dは前側クッション部11の後方への回動により後方へ押戻されて、連結ロッド22fおよび第1、第2リンク22a、22bの下端部を後方へ移動させる。この結果、第1、第2、第3リンク22a～22cは、同図(b)に示すように、漸次倒伏して後側クッション部12を漸次下降させ、前側クッション部11が略水平状に復帰した状態では、後側クッション部12は、同図(a)に示すように、最低位置まで下降して前側クッション部11の後方にて水平状に復帰し、図2に示す大人向け使用態様に変更される。

【0043】

ところで、当該車両用シートにおいては、シートクッションを前側クッション部11と後

50

側クッション部 1 2 とに 2 分割した構成であるため、幼児・子供用の着座部として機能する後側クッション部 1 2 の前後長さを、幼児・子供が着座するに十分な長さとする事ができるとともに、そのクッション性を高めるべくその厚みを厚くしても何等の支障も発生しない。

【0044】

また、当該車両用シートにおいては、前側クッション部 1 1 の前後方向への回動動作と、後側クッション部 1 1 の昇降動作を連動させているため、大人向け使用態様の車両用シートを幼児・子供向け使用態様に変更する際には、前側クッション部 1 1 をフットレストとして機能させるべく前方へ倒伏させれば、これに連動して後側クッション部 1 2 が最大限上昇して着座部として機能する。また、幼児・子供向け使用態様に変更するには、前側クッション部 1 1 を後方へ回動させて水平状に復帰させれば、後側クッション部 1 2 はこれに連動して最低位置に下降して大人向け使用態様を構成する。このため、これら両使用態様の変更は容易であり、極めて使い勝手がよい。

10

【0045】

従って、当該車両用シートによれば、幼児・子供に対する着座状態の快適性を向上させることは勿論のこと、大人に対する快適性をも向上させることができるとともに、幼児・子供向け使用態様と大人向け使用態様との変更を面倒な操作を要することなく行うことができるため、使用性を向上させることができる。

【0046】

また、当該車両用シートにおいて、昇降機構 2 0 を、ベース 2 0 a と、一對のリンク機構 2 0 b, 2 0 c にて構成して、前側クッション部 1 1 と、後側クッション部 1 2 と、ベース 2 0 a を、各リンク機構 2 0 b, 2 0 c により互いに連結したアセンブリの状態に組立てることができる。このため、車両用シートの組立てが容易であるとともに、アセンブリとして各種のクッションフレームに対する汎用性を向上させることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一例に係る車両用シートの幼児・子供向け使用態様を示す斜視図である。

【図 2】同車両用シートの大人向け使用態様を示す斜視図である。

【図 3】同車両用シートを構成する各クッション部および昇降機構を組付けたアセンブリの状態を示す斜視図である。

30

【図 4】同車両用シートを構成する前側クッション部の分解斜視図である。

【図 5】同前側クッション部の縦断側面図である。

【図 6】同車両用シートを構成する後側クッション部の分解斜視図である。

【図 7】同後側クッション部における図 6 の矢印 a - a 線方向の縦断面図 (a)、および同図の矢印 b - b 線方向の縦断面図 (b) である。

【図 8】同車両用シートを構成する昇降機構の分解斜視図である。

【図 9】同昇降機構を構成する各リンクの連結状態を示すもので、図 3 の矢印 a 部の縦断面図 (a)、同図の矢印 b 部の縦断面図 (b)、同図の矢印 c 部の縦断面図 (c)、同図の矢印 d 部の縦断面図 (d)、同図の矢印 e 部の縦断面図 (e)、および同図の矢印 f 部の縦断面図 (f) である。

40

【図 10】同車両用シートの大人向け使用態様と幼児・子供向け使用態様の変更状態を説明する図であり、大人向け使用態様の模式図 (a)、変更途中の模式図 (b)、および幼児・子供向け使用態様の模式図 (c) である。

【図 11】幼児・子供向け使用態様に要請される車両用シートの概略側面図である。

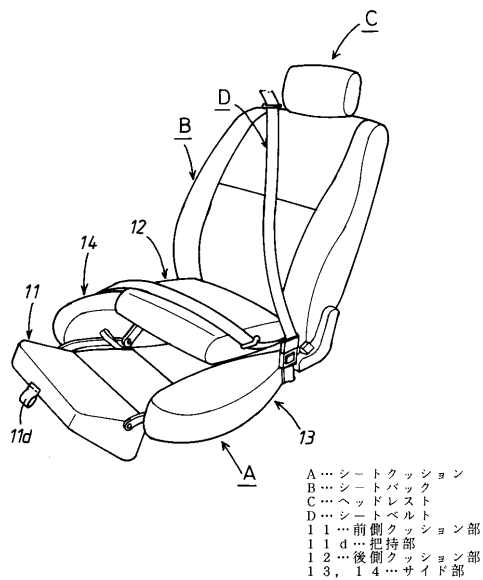
【符号の説明】

A…シートクッション、B…シートバック、C…ヘッドレスト、D…シートベルト、1 1…前側クッション部、1 1 a…フレーム、1 1 b…クッションパッド、1 1 c…カバー体、1 1 d…把持部、1 2…後側クッション部、1 2 a…フレーム、1 2 a 1…前側受承部、1 2 a 2…後側受承部、1 2 b…クッションパッド、1 2 b 1…前側下面、1 2 b 2…後側

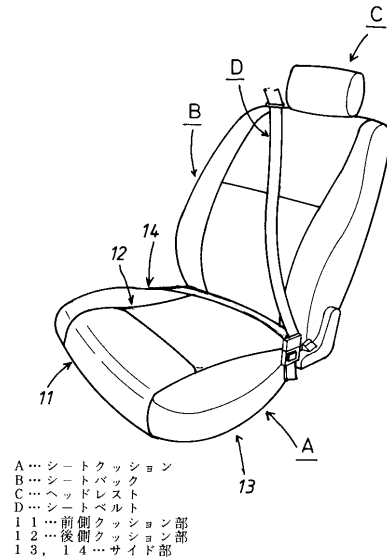
50

下面、12c…カバー体、13, 14…サイド部、20…昇降機構、20a…ベース、20b, 20c…リンク機構、20d…保持機構、21a…前側ベース部、21b…後側ベース部、21c…前壁部、21d…第1側壁部、21e…第2側壁部、21f…第1ガイド溝、21g…第2ガイド溝、22a…第1リンク、22b…第2リンク、22c…第3リンク、22d…第4リンク、22e…第5リンク、22f…連結ロッド、23a, 24a, 26a…ウェルドナット、23b, 24b, 26b…ブッシュ、23c, 24c, 26c…ボルト、23d, 24e…Eリング、24d, 26d…支持ピン、25a, 25b…ヒンジ、26e…ロッド、27…フック、28…テンションスプリング、29…操作紐。

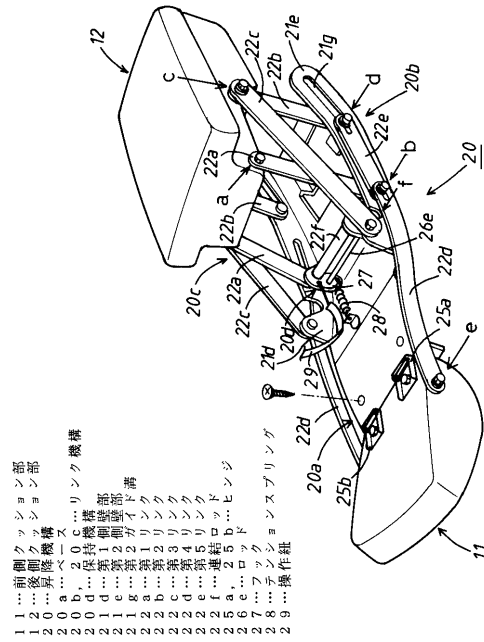
【図1】



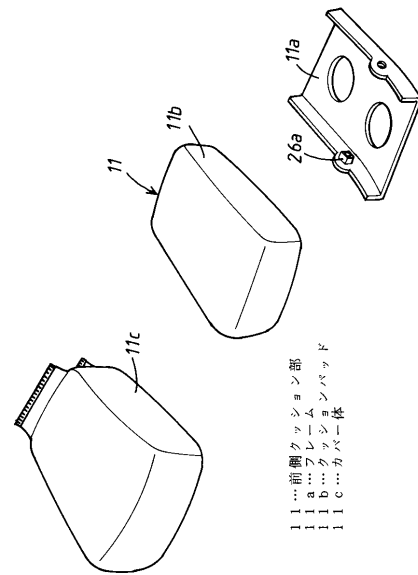
【図2】



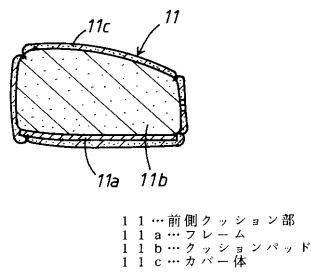
【 図 3 】



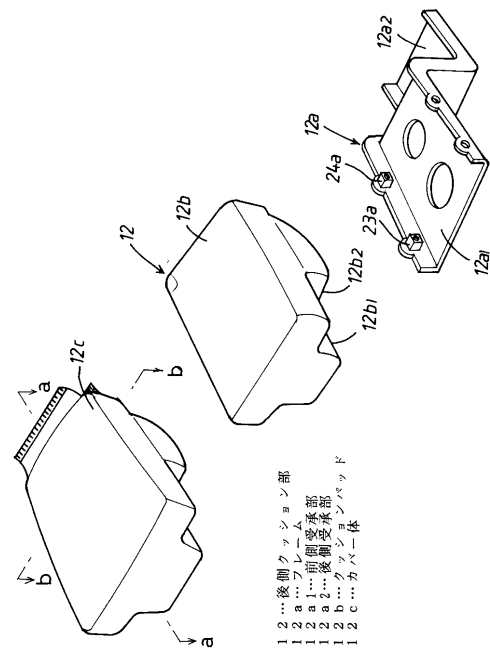
【图 4】



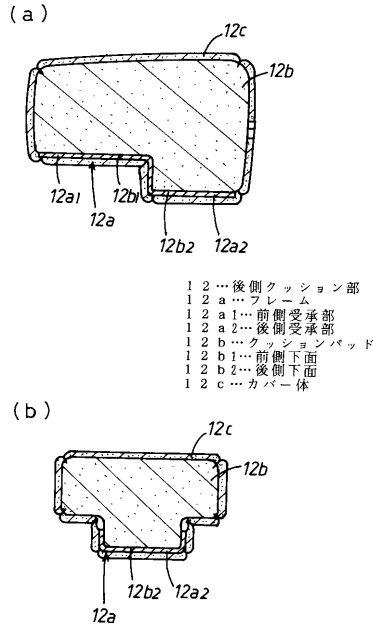
【 図 5 】



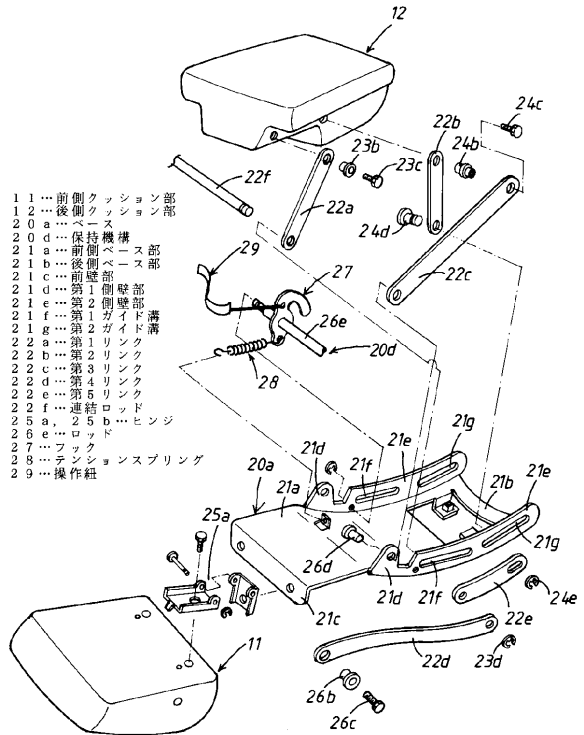
【 図 6 】



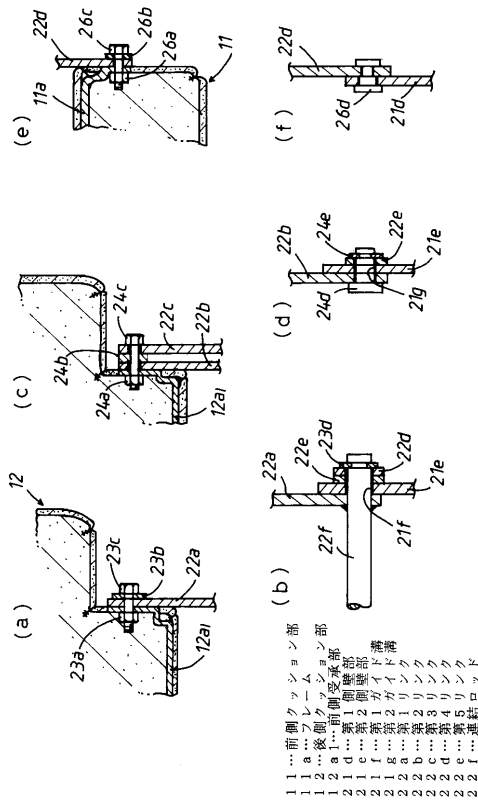
【図 7】



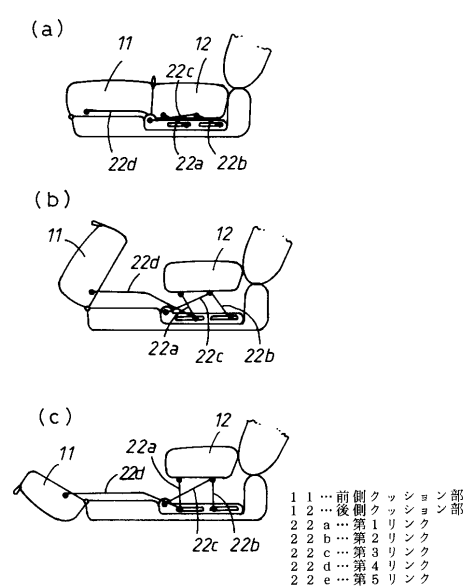
【図 8】



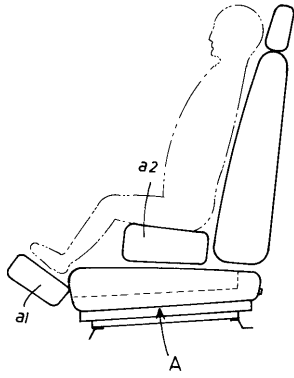
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

審査官 林 茂樹

- (56)参考文献 特開平02-117445 (JP, A)
実開平04-011137 (JP, U)
実開昭57-108439 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B60N 2/18
B60N 2/26